



ユニ総合計画の グリーンコラム

1級建築士
不動産コンサルタント 秋山英樹

2月号

発行日2010年2月

「省エネで必要なモノは？」

民主党政権では、鳩山首相が国連で発言して以来エコビジネスで経済を活性化しようという狙いが明確されつつあります。

今年からは「住宅版エコポイント制度」が発足し、省エネ住宅の新築で最高30万円、省エネ住宅に改修した場合、最高15万円のポイントを頂けるといふものです。

ムダな公共施設や道路を造って経済を活性化するという政策よりは、省エネを推進することに税金を使って経済を活性化しようがよいに決まっていますが、エコなら何でもお得ですよと行った風潮にはいささか疑問を感じます。

省エネ改修は断熱性能を上げることがポイントの中心になっていますが、これまでに断熱性能の高い住宅の例としてスエーデンハウスを筆頭に北欧の住宅が採り上げられます。

それではそれらの地域の気温はどうなのでしょう。必ずしも立地位置と気温は比例しませんが緯度の高いと地域ほど気温は低いのが一般的ですから、イメージとして捉えるために世界各地の緯度を調べてみました。

ストックホルム（北緯59度）、ベルリン（北緯52度）、ロンドン（北緯51度）、パリ（北緯48度）、ローマ（北緯41度）、マドリッド（北緯40度）です。ちなみに日本では、鹿児島（北緯31度）、大阪（北緯34度）東京（北緯35度）、仙台（北緯38度）、札幌（北緯43度）、稚内（北緯45度）です。

このようにみると、パリやロンドンは日本北端の稚内よりも北に位置します。真冬にロンドンやパリに行った人は少ないと思いますが、夏に行ってもそんなに暑くないのに気がつくと思います。当然ですよ。北海道より北に行っているのですから。

そんな地域の住宅なら、断熱材をたっぷり入れなければ寒くて仕方がないというイメージが浮かぶでしょう。

今は温暖化傾向にあるとはいえ、去年の12月は寒かったですね。しかし寒いとはいっても、十分に我慢できる寒さです。

一方、夏はどうでしょう。今年の夏は冷夏でしたので助かりました。一昨やその前はどうかでしょうか。35度なんて当たり前前の東京でした。それに湿度も高く、外人観光客もビックリのようでした。冷静になって考えると、日本の場合は冬よりも夏の気候にどう対処したらよいかを優先した方がよいのでは、と考えてしまうのは私だけでしょうか。

何を言いたいのかといえば、省エネ住宅推進に異論を唱えるつもりはありませんが、夏の暑さから逃れられ快適な住まいを造るにはどうしたらよいかをもっと考える必要があるのではないかとことです。政府では省エネのクーラーに取り替えばエコポイントがつきますが、スタレやヨシズを購入してもエコポイントはつきません。しかし、家に日影をつくることは大きな省エネにつながるのです。

設備や気密性能を高度にして、人工環境の中が一番なんだという考え方は、いずれ破綻するのです。だからといって外気温そのものが高くては快適に過ごせないという都市部の現実があります。そうなら、都市環境そのものを考え直す政策が必要です。屋上緑化は悪くありませんが費用対効果を考えればよくありません。昨年気候変動枠組条約COP15が行われたコペンハーゲンの自転車専用道路などは非常によい例だと思います。

設備機器では省エネ機器といわれるエコキュートは深夜でも発電し続ける原子力発電の応援システムとして開発されているわけで、温水器のエネルギー消費量ではガスと比べて大差はないのです。お湯を沸かす料金が安いから省エネではないのです。原発の余剰電力を使用するから安いのです。エコキュートは原発の余剰電力を使用しているから環境に役立っているという理由なら悪くはありませんが、省エネというほどではないのです。

何が省エネなのかという基本に戻って考えたときに、新たな住宅の住み方そして造り方が生み出され、それがまた新たなビジネスにつながるのではないのでしょうか。